

## 特集：“業績評価”について —— 編集委員長あいさつ ——

伏見 多美雄\*

学会誌『管理会計学』では、初の試みとして特集論文のコーナーを設けました。本号での特集テーマは“業績評価”です。学会誌編集委員会では、かねてからいろいろな専門をお持ちの委員の方に、特集テーマの企画をお願いしてきましたが、その第1回の成果として、このように魅力に富む論文で特集を組むことができたことはご同慶のいたりです。

業績評価というテーマは、会計技法としての測定・評価の側面と同時に、人間の心理的側面を取り扱う行動科学とも深い関わりをもつため、管理会計のみならず、経営管理の多くの分野にまたがるチャレンジングなトピックです。

業績評価は、企業その他の組織体のコントロール・システムの中心をなすものであり、予算管理システムの構築や、各階層の管理者の計画管理行動、および多様な従業員の動機付け、さらには企業内外のアカウンタビリティの問題など、さまざまな経営問題を解決するための基礎になるものです。また、優れた業績評価システムをもつことは、将来の経営業績をよりよくするためにも不可欠だと言われています。

本号に掲載された3つの論文は、業績評価に関するさまざまな適用分野を取り扱っており、それぞれの分野の複雑な問題を理論と実践の両面から解明しています。

改めて言うまでもないことですが、特集号への執筆原稿といえども、「論文」としてご投稿いただいたものは、当学会の基本原則である「ダブル・ブラインド方式によるレフェリー制度」がしっかり適用されます。そのようなルールをご承知の上で論文を投稿され、査読者のコメントにも辛抱強く対応して下さった著者の方々、すなわち Ms. Lin Fitzgerald, Dr. Philip Moon, Dr. Nathalie Halgand, Professor Takeo Yoshikawa, Professor John Innes, Professor Falconer Mitchell の各氏に対して、心から敬意と感謝を申し述べます。

---

\* 学会誌編集委員長、東京理科大学教授  
Tamio Fushimi (Editor in Chief), Professor, Science University of Tokyo

今回の特集は、たまたま英文による論文だけでしたので、読者への便宜を考えて、各著者のアブストラクトを邦訳して、本稿のあとにつけておきます。ただし、投稿論文に対して解説やコメントをつけることは筋違いですので、あくまで論文の大意を紹介することを目的として、著者ご自身のアブストラクトを邦訳するにとどめました。多少は意識した部分があることをご了解下さい。

なお、今回の特集号では、編集副委員長で国際担当常務理事の吉川武男教授に企画段階から種々のアレンジメントの段階まで、「縁の下の力持ち」的な仕事をサポートしていただきました。ここに記して謝意を表したいと思います。

特集号という企画は、私どもの学会誌『管理会計学』では初めての試みでしたが、今後も折にふれて取り上げるつもりです。また、今回の特集は英文による論文集になりましたが、日本語による特集号が組まれる可能性もおおいにありましよう。この企画についての会員諸兄諸姉のご理解・ご協力をお願いするとともに、ご意見・ご要望もお聞かせいただければ幸いです。

\*

This issue of Journal of Management Accounting, Japan (JMAJ) is dedicated to the subject of "performance measurement." Justification for this lies in the varied but central role which performance measurement plays in effective management and in the research challenge provided by a topic which closely links the technical and behavioral aspects of management accounting. Performance measurement provides the core of management control system, namely, a focus for budget design, a basis for incentivising employees and a foundation for both internal and external measurement systems to initiate and support constructive improvement in future performance.

JMAJ welcomes to add three papers written in English in this issue, which exemplify and illuminate many of the above attributes of performance measurement and so contribute to deepen our understanding of both practice and theory in this complex area.

We would like to express our heartfelt thanks to Ms. Lin Fitzgerald, Dr. Philip Moon, Dr. Nathalie Halgand, Professor Takeo Yoshikawa, Professor John Innes, and Professor Falconer Mitchell who submitted their papers for JMAJ.